



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月14日

上場会社名 株式会社ゼネラル・オイスター 上場取引所 東  
 コード番号 3224 URL http://www.oysterbar.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 吉田 秀則  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 安部 浩司 (TEL) 03-6667-6606  
 経営戦略本部 本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家 向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,821	0.9	△342	—	△349	—	△520	—
28年3月期第2四半期	1,804	—	△177	—	△181	—	△128	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △520百万円( —%) 28年3月期第2四半期 △128百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	△338.52	—
28年3月期第2四半期	△87.10	—

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	2,422	362	7.9
28年3月期	2,157	679	31.5

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 191百万円 28年3月期 679百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,200	7.9	40	—	20	—	330	—	213.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	29年3月期2Q	1,550,900株	28年3月期	1,525,700株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	一株	28年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	29年3月期2Q	1,538,945株	28年3月期2Q	1,473,736株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、政府及び日銀による経済政策の効果から雇用情勢の改善をはじめとした緩やかな景気回復基調が続きましたが、世界経済の下振れリスクが顕在化し始めるなど不透明感がましてきました。

外食業界におきましては、個人消費の伸び悩みや原材料価格の高騰に加え、人材不足による採用費や人件費の上昇など、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような環境のもと、当社グループでは、平成28年4月にグループ組織再編を行い、持株会社制に移行しました。持株会社制に移行し、種苗、生産、加工、販売に至るまでの、安全を軸とした高品質な牡蠣の六次産業化をさらに具現化すべく取り組んでおります。

また、浄化センターの統合を行い業務の集約化、効率化を図るとともに不採算店の閉店もを行い、採算性の向上に注力しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,821,284千円（前年同期比0.9%増）、新規出店の開業経費や既存店が回復に至らなかったこと等から、営業損失342,397千円（前年同期は営業損失177,521千円）、経常損失349,620千円（前年同期は経常損失181,222千円）、浄化センターの統合費用や店舗閉鎖による特別損失を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失520,969千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失128,356千円）となりました。

なお、牡蠣という食材に対する消費者の認識上、冬場である11月から3月に売上が偏重する傾向にあり、通常第1及び第2四半期連結会計期間の売上高は、第3及び第4四半期連結会計期間と比較して、減少する傾向にあります。

セグメントの業績は次のとおりです。以下の売上高の数値はセグメント間の取引消去前となっております。

当社は、平成28年4月のグループ組織再編に伴い、第1四半期連結会計期間より、セグメントを変更し、従来「直営店舗事業」及び「卸売事業」としておりましたが、「店舗事業」、「卸売事業」、「浄化・物流事業」及び「その他」に変更しております。

セグメントと事業の内容の関係性は次のとおりです。

- ①「店舗事業」は、直営店舗事業、新規業態店舗事業、富山入善ヴィレッジ事業の店舗から構成されます。
- ②「卸売事業」は、卸売事業から構成されます。
- ③「浄化・物流事業」は、富山入善ヴィレッジ事業の浄化・物流事業から構成されます。
- ④「その他」は、種苗及び海面養殖事業、陸上養殖事業、加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業から構成されます。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成することは実務上困難なため、前年同期比情報については開示を行っておりません。

#### ① 「店舗事業」

当第2四半期連結累計期間において3店舗の新規出店を行いました。平成28年4月にKITTE博多に「ウォーターグリルキッチン」（福岡県福岡市）を、平成28年4月にウイング川崎に「ザ・スチーム シーフードポット&オイスターバー」（川崎市川崎区）を、平成28年5月に東京ガーデンテラス紀尾井町に「ウォーターグリルキッチン」（東京都千代田区）をオープンしました。また、銀座イグジットメルサの「ガンボ&オイスターバー」（東京都中央区）は閉店いたしました。この結果、平成28年9月末日現在の店舗数は33店舗となっております。なお、平成28年12月に1店舗を閉鎖する予定です。

その一方、既存店においては売上高が減少いたしました。競合との差別化やCRMの強化などを行っており、平成28年9月は既存店が前年同月売上高を超えましたが、累計期間での前年同累計期間を超えるには至りませんでした。

以上の結果、店舗事業における売上高は1,693,535千円、セグメント損失105,749千円となりました。

#### ② 「卸売事業」

取引先の開拓に努め取引顧客数は増加しているものの、競合他社増加による競争激化や大口顧客の閉店等の影響から売上が前年同期水準へ回復するには至りませんでした。

以上の結果、卸売事業における売上高は126,008千円、セグメント利益41,587千円となりました。

③ 「浄化・物流事業」

浄化・物流事業では、牡蠣の各産地から富山及び広島浄化センターに入荷し、自社店舗及び卸売先への出荷を行っております。また牡蠣の入荷時及び出荷時の衛生検査も実施しており、牡蠣の安全性確保、店舗及び卸売先への安定供給を支え、当社グループの安全・安心を担保する事業です。当社グループにおけるコストセンターの位置づけであり、費用を予算によりコントロールするマネジメントを行っております。当第2四半期連結累計期間においては、費用はおおむね想定水準であります。

平成28年9月に、業務の集約化、効率化の観点から、広島の浄化センターを閉鎖し、富山の浄化センターに統合いたしました。

以上の結果、浄化・物流事業における売上高は267,014千円、セグメント損失96,785千円となりました。

④ 「その他」

当期は主に海面養殖の自社養殖岩牡蠣を自社店舗に出荷したことから売上が計上されております。陸上養殖及び加工は未だ製品化に向けた段階であり、費用計上のみとなっております。

以上の結果、その他の事業における売上高は16,689千円、セグメント損失39,058千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は2,422,287千円となり、前連結会計年度末と比較して264,782千円の増加となりました。

これは主として、新規出店等により有形固定資産が189,409千円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における負債は2,059,625千円となり、前連結会計年度末と比較して581,718千円の増加となりました。

これは主として、新規出店により1年内返済予定の長期借入金が52,484千円増加したこと及び長期借入金が139,037千円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は362,662千円となり、前連結会計年度末と比較して316,935千円の減少となりました。

これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により、利益剰余金が520,969千円減少したものの、非支配株主持分169,953千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年5月16日「平成29年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました通期連結業績予想から修正しております。詳細は、本日別途開示した「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。なお繁忙期を迎える下期に入ってから、現在までのところ、平成28年9月に引き続き既存店は好調に推移しております。今後も、競合との差別化やCRMの強化を図り、業績回復に向けて邁進してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	400,996	476,083
売掛金	197,348	181,245
原材料	60,058	64,907
その他	57,292	69,374
流動資産合計	715,695	791,612
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	877,756	893,137
建設仮勘定	139,066	315,641
その他	102,556	100,009
有形固定資産合計	1,119,378	1,308,788
無形固定資産		
その他	15,541	12,977
無形固定資産合計	15,541	12,977
投資その他の資産		
長期前払費用	—	14,494
敷金及び保証金	288,056	280,340
その他	18,832	14,075
投資その他の資産合計	306,889	308,910
固定資産合計	1,441,809	1,630,675
資産合計	2,157,505	2,422,287
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	130,415	129,259
短期借入金	—	30,000
1年内返済予定の長期借入金	185,723	238,207
未払法人税等	517	6,230
ポイント引当金	28,653	26,078
株主優待引当金	5,462	9,718
その他	414,724	625,700
流動負債合計	765,495	1,065,196
固定負債		
長期借入金	513,168	652,205
資産除去債務	122,346	136,733
その他	76,896	205,490
固定負債合計	712,411	994,429
負債合計	1,477,907	2,059,625
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	341,919	348,219
資本剰余金	390,929	417,276
利益剰余金	△53,250	△574,219
株主資本合計	679,598	191,275
新株予約権	—	1,433
非支配株主持分	—	169,953
純資産合計	679,598	362,662
負債純資産合計	2,157,505	2,422,287

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	1,804,445	1,821,284
売上原価	574,410	607,747
売上総利益	1,230,035	1,213,537
販売費及び一般管理費	1,407,557	1,555,935
営業損失(△)	△177,521	△342,397
営業外収益		
受取利息	90	2
その他	353	102
営業外収益合計	444	105
営業外費用		
支払利息	4,144	7,328
営業外費用合計	4,144	7,328
経常損失(△)	△181,222	△349,620
特別利益		
国庫補助金	2,625	15,000
特別利益合計	2,625	15,000
特別損失		
固定資産除却損	10,950	—
店舗閉鎖損失	—	148,289
事業所閉鎖損失	—	36,579
特別損失合計	10,950	184,868
税金等調整前四半期純損失(△)	△189,548	△519,489
法人税等	△61,191	1,479
四半期純損失(△)	△128,356	△520,969
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△128,356	△520,969

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純損失(△)	△128,356	△520,969
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	△128,356	△520,969
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△128,356	△520,969
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△189,548	△519,489
減価償却費	45,370	54,784
固定資産除却損	10,950	—
店舗閉鎖損失	—	148,289
事業所閉鎖損失	—	36,579
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△277	△2,574
株主優待引当金の増減額(△は減少)	2,703	4,256
受取利息及び受取配当金	△90	△2
支払利息	4,144	7,328
国庫補助金	△2,625	△15,000
売上債権の増減額(△は増加)	28,078	16,102
たな卸資産の増減額(△は増加)	941	△4,849
仕入債務の増減額(△は減少)	13,821	△1,155
未払金の増減額(△は減少)	△2,560	△34,165
未払費用の増減額(△は減少)	11,090	4,199
その他	△25,289	31,167
小計	△103,290	△274,529
利息及び配当金の受取額	90	2
利息の支払額	△4,262	△7,500
法人税等の支払額	△57,232	—
法人税等の還付額	—	22,077
営業活動によるキャッシュ・フロー	△164,695	△259,948
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	40,000	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△130,820	△445,993
資産除去債務の履行による支出	△3,200	△2,734
国庫補助金による収入	—	231,125
敷金及び保証金の差入による支出	△14,298	△25,412
敷金及び保証金の回収による収入	5,000	1,465
投資活動によるキャッシュ・フロー	△103,318	△241,549
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	—	30,000
長期借入れによる収入	55,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△59,900	△108,479
セールアンド割賦バックによる収入	—	178,701
割賦債務の返済による支出	△26,662	△25,516
株式の発行による収入	41,516	12,600
株式公開による支出	△3,996	—
連結子会社増資に伴う非支配株主からの払込による収入	—	190,000
その他	△720	△720
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,236	576,585
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△262,777	75,086
現金及び現金同等物の期首残高	929,264	400,996
現金及び現金同等物の四半期末残高	666,487	476,083

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

## 1 配当金支払額

該当事項はありません。

## 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

## 1 配当金支払額

該当事項はありません。

## 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	直営店舗事業	卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,643,808	160,637	1,804,445	—	1,804,445
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	262,659	262,659	△262,659	—
計	1,643,808	423,296	2,067,105	△262,659	1,804,445
セグメント利益又は損失(△)	83,952	6,252	90,204	△267,726	△177,521

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額△267,726千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△270,726千円及びセグメント間取引消去3,000千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、組織変更に伴う管理区分の見直しを行ったこと及び各事業セグメント間の比較可能性をより高めるため、各報告セグメントに含まれていた一般管理費について、全社費用としてセグメント利益の「調整額」に含める方法に変更しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注)3
	店舗事業	卸売事業	浄化・ 物流事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,693,535	126,008	1,610	1,821,154	130	1,821,284	—	1,821,284
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	265,404	265,404	16,559	281,963	△281,963	—
計	1,693,535	126,008	267,014	2,086,558	16,689	2,103,248	△281,963	1,821,284
セグメント利益 又は損失(△)	△105,749	41,587	△96,785	△160,947	△39,058	△200,006	△142,391	△342,397

- (注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「種苗及び海面養殖事業」、「陸上養殖事業」及び「加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業」を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△142,391千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、平成28年4月1日付の組織変更に伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを変更し、従来「直営店舗事業」及び「卸売事業」としておりましたが、「店舗事業」、「卸売事業」及び「浄化・物流事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成することは実務上困難なため、当第2四半期連結累計期間のセグメント情報を変更前の区分により作成すると以下のとおりとなります。

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	直営店舗事業	卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,693,535	127,749	1,821,284	—	1,821,284
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	281,963	281,963	△281,963	—
計	1,693,535	409,713	2,103,248	△281,963	1,821,284
セグメント損失(△)	△105,749	△59,262	△165,011	△177,385	△342,397

- (注)1 セグメント損失(△)の調整額△177,385千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 2 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、店舗事業のセグメント資産78,280千円を減損損失として特別損失に計上しております。